

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成22年度 第2回 川西市青少年センター運営委員会	
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 青少年センター 内線(4500)	
開 催 日 時		平成23年3月23日(金) 10:00~11:40	
開 催 場 所		川西市役所 庁議室	
出席者	委 員	益満良一、津田加代子、岩崎智也、渡邊富夫、中田鞆子、 真鍋由香里、澁野敏彦、田村嘉規、佐伯直樹、牛尾 巧	
	事務局	林 一幸、上中敏昭、大谷啓史、中井裕子	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部可	傍聴者数
		1人	
傍聴の不可・一部 不可の場合は、その 理由			
会議次第		開会 1. 運営委員の委嘱について 2. 会長あいさつ 3. 協議事項 (1) 平成22年度 川西市青少年センター事業総括 (2) 平成23年度 川西市青少年センター事業方針 4. その他 閉会	
会議結果		協議事項は(案)どおり了承	

1、運営委員の委嘱

運営委員会の冒頭に委員の異動に伴ない新たに就任された委員に運営委員会会長の益満 良一教育長から委嘱辞令が交付された。

2、会長あいさつ

大変ご多用の中、第2回青少年センター運営委員会にお集まりいただきありがとうございます。

平素より青少年の健全育成並びに非行防止に対しまして、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

東日本大地震では報道を通じて避難所での生活を見ているだけでも秩序ある生活、心温まる様子が伺えました。改めて日本の良さや子ども達の力強さを実感しました。

さて、あと数日で3月が終わり、新しい年度を迎えることとなります。学校、幼稚園では子ども達が来年度の新しい生活に少しの不安と大きな期待を持ちながら春休みを迎えようとしていることと思います。

昨今の青少年の問題を取り巻く環境はいじめや不登校、虐待など極めて深刻であります。これらの背景には、社会全体の規範意識の低下、家庭や地域の教育力の低下などが相互に絡み合いより複雑化、多様化しているように思えます。

そのような問題を検証し具体的な対応策を検討していく事が求められています。

本日の第2回運営委員会が実り多い協議になることを期待しております。委員の皆様、どうぞよろしく願いいたします。

3、協議事項

〈事務局説明〉

(1) 平成22年度 川西市青少年センター事業総括

学校・地域の連携による子どもの安全を守る取り組みの推進

不審者対応訓練・こども防犯教室・非行防止教室等の開催

青少年補導委員による補導活動の推進

学校・警察・関係機関と連携した支援指導

支援指導の事例報告

【質疑応答】

(会長)

協議事項(1)事務局より説明がありました。質問及び意見をお伺いします。

(委員)

民生委員主任児童委員では小学校区ごとに定期的に学習会を開催しているが、ある主任児童委員が中学1年男子を持つ母親からの相談を受けた。内容は朝、登校するが学校には行かずに帰宅し自室に入ってしまう。このような状況が続いている。

担当主任児童委員が家庭訪問した際に「学校に相談されたのか」と尋ねると母親は相談していないとのことであった。

主任児童委員が学校訪問し相談を受けた家庭の話をする、学校は把握している新年度になり気持ちを新たにすることで登校することも考えられるので、現状としては子どもの様子を見守りながら学年等で考えているとのことである。

その後、児童委員は何度か家庭訪問を繰り返していた。一度、子どもと会うことができ話を聞くと「母親がうつ状態である」ので家の中にいる母親を気にかけてながら話しをしていた。

このような場合の対応はどのようにすればよいのか。

(事務局)

学校だけでは難しいと思われるケースについては、民生委員、主任児童委員など地域で支えていく。又、青少年センターとしては子どもだけではなく、その子どもに向き合う保護者に対してどのような支援できるかを考えている。保護者と会う中で冷静に落ち着いて判断ができ、子どもと向き合ってもらえるような対応を考えている。そのような中で学校との連携も大切であると思う。

(会長)

学校との連携、地域との連携、不登校など個々にケースが違うが情報の共有は重要である。

(委員)

不登校について学校では、担任を中心に学年代表、不登校担当が必要に応じて関係機関とのケース会議を持ち支援計画を立て関わっている。又、保護者との関係作りも平行して行い学校においては子どもを迎え入れる学級づくりをしていく。民生委員主任児童委員と学校との関係においては、情報をやりとりすることでそれぞれに何ができるのか明確になるのではないかと思う。

(委員)

お互いに情報を正確に共有する。

(委員)

日常どれだけ情報交換をするかが重要である。安全協力員も兼ねて民生委員をされている方とは毎朝、子どもたちの様子を聞くことができ細かな情報が入る。虐待、非行等養育に課題が見られる家庭では保護者も子どももお互いがかばいあうことが多く、家庭の様子が見えないこともある。

(委員)

青色回転灯装備車による巡回パトロールの充実をはかると言うが支援指導の状況や内容を伺っていると人数的に厳しいのではないか。補導委員の協力を得ることはできないのか。又、複数乗車が望ましいと思われるが単独でも良いのではないか。

(事務局)

乗車するにあたっては警察からの「パトロール実施者証」と言う許可書が必要となるので補導委員の協力を得ることは難しいが各地区でそれぞれ自治会の防犯などと連携し地区内の巡回を実施されている所もある。青少年センターとしては、危険情報が入った場合は重点的に巡回をしている。

基本的には複数で巡回するとなっているが、事情によっては一人で巡回し何かあれば連絡を取り合うと言うことも考えている。

次年度は、できるだけ定期的に巡回し市民への安全啓発を図っていきたいと考えている。

(委員)

子どもたちの登下校の見守りをしていただいている学校安全協力員等には日頃から様々な配慮や支えをしていただき感謝している。ただ、登校時は比較的人員はいるが、下校時の見守りがそれぞれの事情により出にくい人が多く、少し減少しているように聞くが何かこれからの方向性はあるのか伺いたい。

(事務局)

登校時については、地域によっては学校安全協力員の方が登校班に付き添い、時には遅れて登校する子どもに声をかけていただき一緒に登校していただける方もいる。

現在、1,458名の学校安全協力員の方に活動していただいているが、基本的にはできる時間帯に無理のないように活動していただいている。しかし、下校時については学校と安全協力員の方が連絡を取り合いながら下校時間の確認をし見守りの体制をとっていただいているが、なかなか一斉に活動ができないことも現状であり、課題である。学校ごとに交流会をもつていただいているので、課題など協議しながら学校と安全協力員の連携をとっていただけるようにしていきたい。

(会長)

PTAの立場から今年度PTCA青少年フォーラムでのパネルディスカッションがありました。どのように感じられましたか。

(委員)

PTCA青少年フォーラムで子どもたちに「大人たちに何か言いたいことはないのか。」と言うと「自分の将来は真っ暗」「真面目に生きてることは損である」など大人として親として考えさせられる内容であった。

PTAとしては、保護者の気持ちを変えるには子どもたちを通して変えるしかないと思い、子どもたちの本音の声を届けたいと今回のフォーラムを実施することにした。その後、保護者のアンケート結果を見ると、「こんなことを考えてるとは思わなかった」「自分自身も家に帰ってもう一度考えてみたい」などがあり、本音で向き合えたように思った。

(委員)

大人のマナーの悪さやずるさなど現状の社会はマイナス要因が多く、先を見通せない子どもたちが多いのではないかと。我々、大人がきちんと子育てできたか考えさせられることなど反省することが多かった。

3、協議事項

〈事務局説明〉

(2) 平成23年度 川西市青少年センター事業方針

概況

業務内容

- 非行防止対策
- 青少年の健全育成及び安全確保
- 青少年情報発信（広報啓発）

重点事業

- 児童・生徒と保護者に対する迅速且つ適切な支援指導
- 園児・児童及び生徒の安全確保・非行防止教室（研修会）の充実
- インターネット・ケータイ問題への取り組み
- 「学校安全協力員」「こどもをまもる110番のおうち」の拡充と充実
- 補導活動と研修の充実
- 地域安全パトロールの充実

【質疑応答】

(会長)

青少年を取り巻く環境は厳しく、学校、地域、家庭（保護者）、行政及び関係機関の連携なくしては問題解決は難しいと思う。とりわけ地域との連携の必要性を強く感じる。又、ここで課題になっているのは各家庭（保護者）が大きなテーマになっているように思う。

(委員)

保護者間のコミュニケーションがとれていない状況がある。新しい関係を作ろうとしない為、PTAとしては仲間作りをしてもらえるよう声をかけている。そして、確かな情報を伝えていきたいと考えている。

(委員)

川西警察署管内においての少年事案の特徴は万引き、オートバイ盗と言った初発型非行が増加傾向にある。

学校、関係機関とも今後、一層の連携を図っていきたいと考えている。情報の共有がいかに重要であると思っている。

(委員)

様々なケースがあると思うが後退することなく前向きに捉えて実践していただきたい。

4、その他

閉会